

学 習 日 誌

9月 12日 (金)	講 師	趣味教養「旅」グループ & 5年6班 伊藤忠志
出席者数	68名	記 録 者 9年 2班 飯岡瀬一
講 座 名	趣味教養グループ講座 2	
プログラム担当者	趣味教養グループ	
時 間・場 所	13:30~15:30 、第1集会室 にて	

【学習内容】

- (1)「東海道五十三次 浮世絵と江戸時代の女性旅」 趣味教養「旅」グループ 8名
 広重の浮世絵11枚（日本橋、品川、川崎、神奈川、保土ヶ谷、戸塚、藤沢、平塚、大磯、小田原、箱根）を使って江戸時代の女性の旅の様子を「旅」グループの8名が軽快な語り口で発表した。
- この時代に女性旅が爆発的に流行した理由（貨幣経済、街道筋・宿場の整備。女子教育など）
 - 女性の旅装（道中着・脚絆など）、一日に歩いた距離（約30^{キロ}）、往来手形・関所手形を必携 など図を使って細かく説明。
 - 歌川広重の略歴や浮世絵とはどんなものか、など基礎情報。
 - 日本橋から箱根までの浮世絵について、描かれている情景や人物に関して1枚ずつ丁寧に解説した。女性旅という視点から「東海道五十三次」を取り上げたのはとても斬新だった。

- (2)「接着の化学」 5年生 6班 伊藤忠志
- 接着のメカニズム（まだ完全に解明できていない）
 - 「ヤモリはどうして壁を登れるのか？」＝ヤモリの4本の足の裏に膨大な繊毛が生えており、「ファン・デル・ワールス 力」という原子間に働く力によって壁にくっついて登ることが出来る。
 - 接着剤の種類
 - 接着剤の選び方（用途・性能から選ぶ） など。

- (3) 講座終了後、「ジャンル別グループ会議」（司会 門田高士）

【感想】

「東海道五十三次 浮世絵と江戸時代の女性旅」

「東海道五十三次」は、東京国立博物館で実際に何度も観たことがある。今回の説明で初めて知ったことも多く、大変楽しく講義を聴いた。特に、女性旅の視点で細かく説明しながら箱根までの宿場を一つ一つ辿るのは興味深いことだった。テーマの設定、深堀の仕方など、とても勉強になった。

「接着の化学」

普段考えたこともないことだった。何気なく使っている接着剤のメカニズムについて興味深く講義を聴いた。聞きなれない用語が多いのでとっつきにくい面もあるが、じっくり聞いていると実に面白い。ヤモリの足の裏の繊毛については、思いもよらなかった。